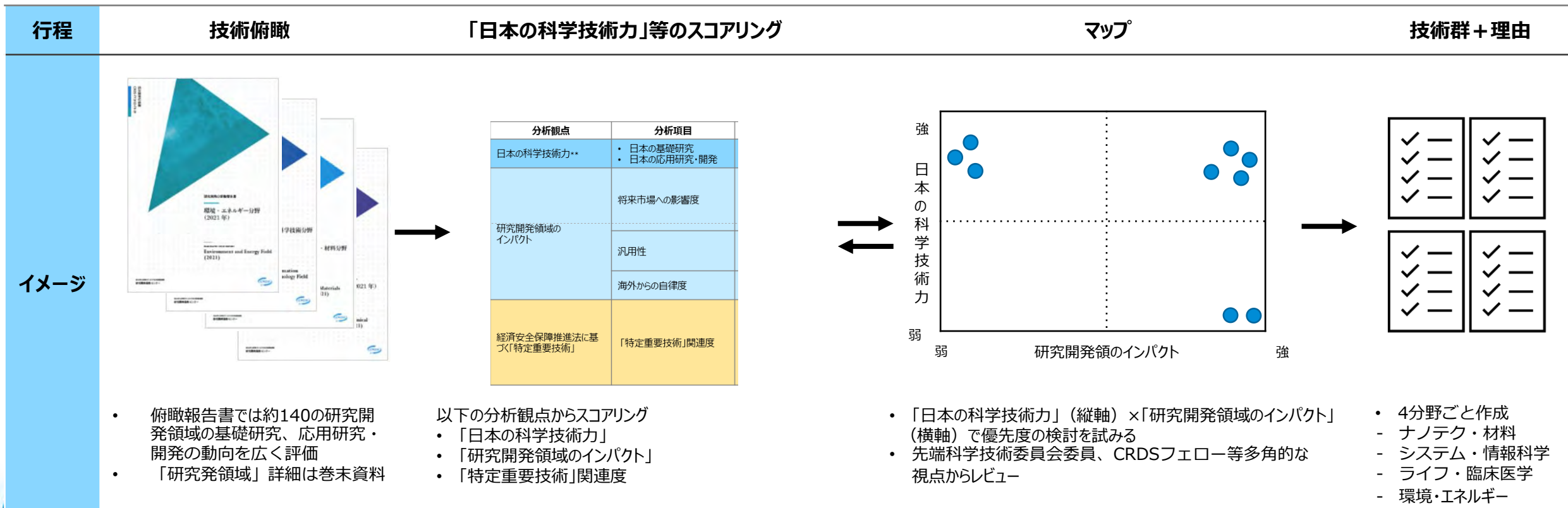


2. 本分析の実施方法・実施体制

2-1 実施方法

- 「俯瞰報告書」における「日本の科学技術力」分析に、「研究開発領域のインパクト」と「『特定重要技術』関連度」の観点を新たに加えて分析した*。
- 「日本の科学技術力」を縦軸にし、「研究開発領域のインパクト」を横軸としてマップ作成を試みる。
- JST-CRDS先端科学技術委員会（以下、先端科学技術委員会）の専門家によるレビューを通して、4分野（ナノ材、情報、ライフ、環エネ）に関する経済安全保障の観点から重要だと考えられる技術のリストを作成。
- 本分析は先端科学技術委員会やCRDSフェロー等、科学技術の専門的立場からの分析である点に留意。



2. 本分析の実施方法・実施体制

2-1 実施方法 – スコアリング

- 俯瞰報告書の「日本の科学技術力」の分析に加え、先端科学技術委員会、CRDSフェローの知見から以下の「研究開発領域のインパクト」、「『特定重要技術』関連度」をスコアリングする*。

分析観点	分析項目	概要
日本の科学技術力**	<ul style="list-style-type: none"> 日本の基礎研究 日本の応用研究・開発 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研究、応用研究・開発にかかる現状を、国内外の学会・ジャーナル・ファンディング・産学連携・産業動向・政策動向等から分析した日本の科学技術力
研究開発領域のインパクト	先進性（将来市場への影響度）	<ul style="list-style-type: none"> 産業構造・基盤を革新し新たなエコシステムを構築し、将来の新たな市場創造や市場全体の変革に大きな影響を与え得る度合い。 経済社会、文化、人々の暮らしなどに大きな進化・変化を与え得る科学技術。破壊的テクノロジー、ゲームチェンジングテクノロジー等を含む。 革新性やその科学技術への期待が急速に高まりつつある研究開発分野。
	多義性（汎用性）	<ul style="list-style-type: none"> 多目的に利用できるなど、適用範囲の広さの度合い。 様々な用途のシステムに共通して活用し得る度合い。 マルチユースの可能性が考えられ得る度合い。
	自律性（海外からの自律度）	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発において海外のリソース（研究設備、装置、システム、データ、材料、人材等）に依存することなく、自律的に基礎研究ならびに応用研究・開発を推進し得る/している度合い。
経済安全保障推進法に基づく「特定重要技術」	「特定重要技術」関連度	<ul style="list-style-type: none"> 国家及び国民の安全を損なう事態を生ずるおそれがある技術。①～③のいずれかもしくは複数該当する技術か否かの度合い。 ① 当該技術が外部に不当に利用された場合において、国家及び国民の安全を損なう事態を生ずるおそれがあるもの ② 当該技術の研究開発に用いられる情報が外部に不当に利用された場合において、国家及び国民の安全を損なう事態を生ずるおそれがあるもの ③ 当該技術を用いた物資又は役務を外部に依存することで外部から行われる行為によってこれらを安定的に利用できなくなった場合において、国家及び国民の安全を損なう事態を生ずるおそれがあるもの

*研究開発領域は俯瞰報告書で取り上げる一定の学術的知識や方法論が体系化しているカテゴリを指す。本分析は先端科学技術委員会やCRDSフェロー等、科学技術の専門的立場からの分析である点に留意。

2. 本分析の実施方法・実施体制

2-3 実施体制

- 本取り組みは、先端科学技術委員会やCRDSフェロー等の科学技術分野の専門家と政策担当者の両者の視点を入れ、協力して分析を行う。

